東北６県と整備局が創る
河川・ダム・砂防・海岸事業の新たな連携
「個性の大地」

第５３号（平成２９年１月）
【～新たなステージ　復興・創生へ～】
東北地方整備局河川部
地域河川課　発行

整 備 局 情 報

◆栗駒山系直轄砂防事業完成　～H20 岩手・宮城内陸地震土砂災害対策が完了～

平成 20 年 6 月 14 日M7.2　最大震度 6 強の「岩手・宮城内陸地震」により岩手県一関市、宮城県栗原市において大規模な山腹崩壊や河道閉塞が多数発生し、両県知事の要請により国（直轄）による土砂災害対策を進めて参りました。このほど宮城県側も完了し、両県内の土砂災害対策がすべて完了したことから、平成 28 年 11 月 26 日（土）に「栗駒山系直轄砂防事業完成式」が挙行されました。



◆肘折地区土砂災害対策完成　～H24 発生銅山川流域肘折地区の斜面崩落対応～

平成 24 年 4 月に発生した肘折地区の斜面崩落の対応として、山形県と国土交通省は、対策工事を進めてきましたが、このたび斜面対策の工事が完了することで、すべての対応が完了したことから、平成 28 年 11 月 13 日（日）に「肘折地区土砂災害対策完了式」が挙行されました。



◆水害・土砂災害への備えに関する要配慮者利用施設の管理者向け説明会を開催

水害・土砂災害情報等について、要配慮者利用施設の管理者のみなさまに理解を深めていただき、今後の災害発生時の被害軽減に努めていただくことを目的として、東北管内では初となる施設管理者に対する説明会を青森県内で１２月に開催しました。

この説明会は、昨年８月台風１０号により岩手県岩泉町で小本川が氾濫し、グループホームの入所者９名が亡くなられたことを受けて、全国の要配慮者利用施設の管理者に対し開催しています。

説明会では国や県の担当者から、要配慮者施設では「避難準備・高齢者等避難開始」情報で避難行動の開始となることや、雨量や河川水位等の情報の入手方法などが具体的に説明され、参加者から「学んだことを参考にしてマニュアルを見直したい」といった声が聞かれました。

引き続き、東北各県で説明会を開催する予定です。

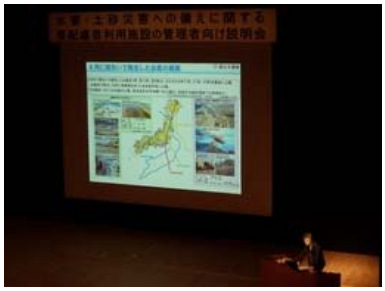
平成29年1月26日時点

都道府県名	調整状況	開催日時	開催場所
青森県	3会場で実施済	平成28年12月13日（火）13:00～15:30	青森市民ホール
		平成28年12月20日（火）13:00～15:30	弘前市民会館
		平成28年12月21日（水）13:00～15:30	八戸市公会堂
秋田県	８会場で実施予定	平成29年 2月27日（月）14:00～16:00	北秋田市文化会館
		平成29年 2月28日（火）14:00～16:00	能代山本広域交流センター
		平成29年 3月 1日（水）10:00～12:00	秋田市文化会館
		平成29年 3月 2日（木）10:00～12:00	秋田市文化会館
		平成29年 3月 7日（火）14:00～16:00	湯沢市文化会館
		平成29年 3月 8日（水）13:00～15:00	由利本荘市文化交流館「カダーレ」
		平成29年 3月 9日（木）14:00～16:00	大曲市民会館・小ホール
		平成29年 3月14日（火）13:00～15:00	文化の杜交流館「コモッセ」
		平成29年 3月16日（木）14:00～16:00	横手市民会館
岩手県	９会場で実施予定	平成29年 2月22日（水） 9:00～17:00	宮古市文化会館
		平成29年 2月23日（木） 9:00～17:00	三陸公民館
		平成29年 2月28日（火）13:00～17:00	二戸市文化会館
		平成29年 3月 2日（木）13:00～17:00	久慈市文化会館アンバーホール
		平成29年 3月 8日（水） 9:00～17:00	花巻市文化会館
		平成29年 3月 9日（木） 9:00～17:00	北上市文化交流センターさくらホール
		平成29年 3月15日（水）13:00～17:00	奥州市文化会館 Ｚホール
		平成29年 3月16日（木）13:00～17:00	盛岡市民文化ホール
		平成29年 3月22日（水）13:00～17:00	一関文化センター
山形県	８会場で実施予定	平成29年 2月13日（月）14:00～16:00	新庄市民プラザ
		平成29年 2月14日（火）14:00～16:00	東根市さくらんぼタントクルセンター
		平成29年 2月15日（水）10:00～12:00	山形国際交流プラザ 山形ビックウイング
		平成29年 2月15日（水）14:00～16:00	山形国際交流プラザ 山形ビックウイング
		平成29年 2月16日（木）14:00～16:00	酒田市民会館希望ホール
		平成29年 2月17日（金）14:00～16:00	伝国の杜
		平成29年 2月20日（月）14:00～16:00	寒河江市中央公民館
		平成29年 2月21日（火）14:00～16:00	タスパークホテル
		平成29年 2月22日（水）14:00～16:00	いろり火の里なの花ホール
宮城県	８会場で実施予定	平成29年 2月10日（金）10:00～12:00	大崎合同庁舎
		平成29年 2月10日（金）13:30～15:30	大崎合同庁舎
		平成29年 2月12日（日）10:00～12:00	大河原合同庁舎
		平成29年 2月12日（日）13:30～15:30	大河原合同庁舎
		平成29年 2月14日（火）13:30～15:30	登米合同庁舎
		平成29年 2月16日（木）13:30～15:30	石巻専修大学
		平成29年 2月19日（日）13:30～15:30	気仙沼市役所
		平成29年 2月20日（月）13:30～15:30	栗原合同庁舎
		平成29年 4月下旬～5月下旬(仙台近郊)	県庁講堂
		平成29年 4月下旬（仙台市）	未定
福島県	８会場で実施予定	平成29年 2月 6日（月）14:00～16:00	ビックパレットふくしま
		平成29年 2月 7日（火）14:00～16:00	原町生涯学習センター サンライフ南相馬
		平成29年 2月 8日（水）14:00～16:00	会津若松市文化センター
		平成29年 2月 9日（木）14:00～16:00	白河文化交流館 コミネス
		平成29年 2月10日（金）14:00～16:00	いわき市文化センター
		平成29年 2月13日（月）14:00～16:00	福島市公会堂
		平成29年 2月15日（水）14:00～16:00	喜多方プラザ文化センター
		平成29年 2月16日（木）14:00～16:00	下郷町ふれあいセンター

（青森県）



会場の様子（青森会場）



説明状況



聴講状況（八戸会場）

平成２８年度県等管理河川における維持管理状況定期調査について

地域河川課　調査指導係

県等管理河川における維持管理状況定期調査は、「維持管理に関する技術支援体制の充実と窓口設置について（平成 25.4.26 河川環境課長ほか通知）」に基づき、河川等分野にかかる維持管理に関する技術支援窓口として平成 25 年 6 月に設置した「河川砂防保全技術支援チーム」の活動の一環として実施しております。

本取り組みは平成 23 年度から実施しているもで、平成 28 年度おいては５県のご協力を頂き、９河川の河川維持管理状況の把握と各河川の抱える技術的課題への対応等について意見交換を実施しました。



河道内樹木及び堆積土砂



落差工の変状



地元ボランティアによる除草状況

調査対象河川においては、河道内樹木及び堆積土砂による河積阻害、河川管理施設の老朽化及び河床低下による変状、堤防除草状況などの課題について現地調査で確認を行いました。これらの課題に対して、河川巡視等による適切な状況把握、水防管理団体との情報共有、地元住民及び企業との連携による河川管理など、個別の課題に対するアドバイスを行いました。

平成 28 年度定期調査実施河川

青森県	岩木川水系後長根川・浅瀬石川
宮城県	北上川水系二迫川
秋田県	米代川水系根市川・小坂川
山形県	最上川水系立谷川・乱川・馬見ヶ崎川
福島県	阿賀野川水系田付川



意見交換会の状況

「河川砂防保全技術支援チーム」では、維持管理に限らず河川等における技術的課題への相談対応を行っておりますので、お問合せ下さい。

問合せ先：東北地方整備局　河川部　地域河川課　課長補佐及び調査指導係長

TEL　022-225-2171（内線 3812　or　3826）

平成２８年度水管理・国土保全局所管国庫補助事業等完了検査実施状況について

水　政　課
地域河川課

平成２８年度水管理・国土保全局所管国庫補助事業等完了検査については昨年９月から１２月にかけて、青森県・宮城県・秋田県・山形県・福島県の各県で３日間、仙台市で１日間の日程で補助金及び交付金事業を対象に、検査を実施しました（岩手県は台風１０号による災害対応があったため延期しており今後行う予定)。日程調整や検査にご協力頂きました各ご担当者の皆様方にはこの場をお借りし改めて御礼申し上げます。

補助事業等の完了検査は「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」に基づき、完了翌年度の４月１０日（事情がある場合は６月３０日）等定められた期限までに提出された「事業完了実績報告」の事業を対象に、その成果や執行が交付決定された内容やこれに附した条件に適合するものであるかを確認するほか、地方公共団体と国の担当者が、書面検査及び現地確認時において意見交換や情報交換を行うことにより、効率的で質の高い事業の執行を目指すものでもあります。

完了検査は契約書類等の書面の確認、現地における出来形等の確認を行いました。内容についてはその都度確認しながら行い、検査終了後に検査時の確認事項についてとりまとめることにより、意思の疎通が図られたと思います。また、以前は講評を検査最終日にまとめて行っていましたが、今回は各出先機関毎に行いました。これにより各担当者にも内容が確実に伝えることが出来たのではないかと思います。



【書面検査状況】工事内容が交付の目的に合致しているか 等



【現地検査状況】寸法が出来型図とあっているか 等

今回の検査において不適合として是正命令を行うような事案はありませんでしたが、適正な予算執行管理のもと補助事業等の効果が早期に発揮されるよう事業の進捗に努めていただくとともに、頻発する災害や構造物の老朽化対策など取り巻く環境が著しく変化しているなか引き続き適切な維持管理に努めていただくようお願いします。

◆平成 28 年度　河川・ダム管理技術検討会を開催

河川・ダム管理技術検討会は、河川及びダムに関する管理業務に携わる国及び県職員を対象に、管理業務における技術的な課題や取組み事例などを発表、意見交換し、管理技術に関する情報共有や質的向上を目的に開催するもので、平成 28 年 12 月 1 日、2 日に開催されました。

発表された 28 題から下表の方々が受賞されました。

No.	テーマ	発表論題	発表者	
最優秀賞				
9	②管理の効率化・コスト縮減・新技術	ICT技術を活用したダム管理の取り組みについて	北上ダム統合管理事務所 胆沢ダム管理支所　管理第一係長	オノデラ　トシ キ 小野寺 智紀
17	③占用・地域連携	最上川上流における「公募伐採」の取り組みについて	山形河川国道事務所 長井出張所　管理第二係長	サトウ　ユウタ 佐藤 雄太
19	④河川・ダム管理	素波里ダムにおける濁水長期化軽減策について	秋田県　山本地域振興局 建設部　素波里ダム管理事務所長	キタバヤシ　リョウイ 北林 了以
優秀賞			-	-
7	②管理の効率化・コスト縮減・新技術	河川維持管理費コスト縮減の模索	湯沢河川国道事務所 河川管理課　河川維持係長	チバ　シンブ 千葉 忍
10	②管理の効率化・コスト縮減・新技術	MMSを活用した河川堤防の状態監視に向けた取り組み	東北技術事務所 品質調査課　品質検査係長	チバ　タカトシ 千葉 孝寿
12	③占用・地域連携	玉川水系ダム群及び田沢湖の運用管理（連携運用）について	玉川ダム管理所 管理係長	ナラ　タクミ 奈良 匠
14	③占用・地域連携	県民との協働による河川・海岸の清掃美化活動について	山形県　県土整備部 河川課　主事	アオキ　ケイ 青木 慧
16	③占用・地域連携	鳴子ダムを活用した地域活性化の取り組み	鳴子ダム管理所 専門官	フクシ　タカヨシ 福士 高義
27	④河川・ダム管理	郡山出張所管内における堤防除草の現状と課題	福島河川国道事務所 郡山出張所　管理第二係長	オオタキ　ワタル 大滝 渉

なお、発表された 28 題から、平成 29 年 2 月 9 日に開催される第８回全国河川・ダム管理技術検討会での発表が選抜され、東北からは下記の４題が全国検討会で発表される予定です。

発表論題	発表者	
県民との協働による河川・海岸の清掃美化活動について	山形県　県土整備部 河川課　主事	アオキ　ケイ 青木 慧
ICT技術を活用したダム管理の取り組みについて	北上ダム統合管理事務所 胆沢ダム管理支所　管理第一係長	オノデラ　トシ キ 小野寺 智紀
最上川上流における「公募伐採」の取り組みについて	山形河川国道事務所 長井出張所　管理第二係長	サトウ　ユウタ 佐藤 雄太
素波里ダムにおける濁水長期化軽減策について	秋田県　山本地域振興局 建設部　素波里ダム管理事務所長	キタバヤシ　リョウイ 北林 了以

トピックス

◆台風第１０号における堤防決壊対応について（一級河川高瀬川水系二ツ森川）

青　森　県

○はじめに

平成 28 年 8 月末、観測史上初めて東北地方の太平洋側に上陸した台風第 10 号は、本県を北上し、青森市の酸ケ湯観測所、むつ市の湯野川観測所で観測史上最大の日降水量を記録するなど、県内の広範囲に大雨をもたらしました。

特に上北地方においては、8 月中旬からの台風第 7 号、台風第 9 号、そして台風第 10 号と連続しての大雨となり、奥入瀬川の中掫観測所、焼山観測所では既往最高水位を観測しました。

この大雨により、一級河川高瀬川水系の二ツ森川では左岸堤防が約 20m にわたり決壊し（写真-1）、農地約 8ha が浸水（写真-2）するなど、各地で大きな被害が発生しました。



写真-1 決壊状況

○堤防決壊への対応

決壊部について早期に応急工事を実施するとともに、「災害時における応急対策業務に関する協定」に基づき、ドローンによる空中写真撮影（写真-2,3）を実施することで、浸水範囲の早期の把握に大きな効果がありました。

また、青森河川国道事務所に対して排水ポンプ車１台、照明車１台の出動を要請し、浸水区域の早期の解消に努めました。（写真-3）



写真 2-全景

加えて、決壊原因の究明と復旧工法検討のため、土木研究所、国土技術政策総合研究所の職員派遣を依頼し、ご支援をいただきました（写真-4）。

決壊原因については浸透による堤体土砂流出と考えられるとの助言をいただいたことから、それに対応する復旧工法として災害復旧申請し、採択されました（図-1）。

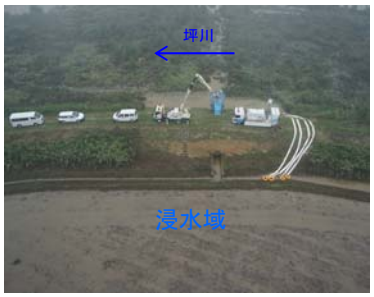


写真-3
ポンプ車による排水状況



写真-4
土研・国総研による現地調査

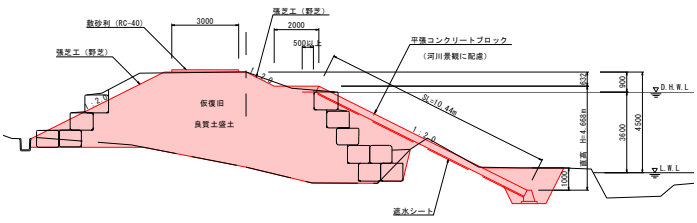


図-1 復旧標準断面
（遮水シート＋平張コンクリートブロック）

現在、１日も早い復旧を目指して、工事を実施しているところです。

最後に、地域河川課や青森河川国道事務所、土木研究所、国土技術政策総合研究所の皆さまに多大なご協力をいただきましたことを、厚く御礼申し上げます。

◆平成 28 年 8 月の台風 10 号で被災した小本川の治水対策について

岩手県県土整備部河川課

平成 28 年 8 月 30 日の台風 10 号により、沿岸部を中心に記録的な大雨（例：岩泉雨量観測所の既往最大時間雨量 66㎜/h を記録、小本川の赤鹿地点の被災流量 2,400m3/s（確率規模 1/30 相当））となり、小本川（岩泉町）などで甚大な浸水被害が発生したところであり、県では、被災状況の調査や治水対策の検討を進めるとともに、関係機関と調整を重ねてきたところですが、平成 28 年 12 月 9 日に小本川、安家川（岩泉町）、長沢川（宮古市）、大槌川（大槌町）において、河川激甚災害対策特別緊急事業や河川等災害関連事業等が採択され、概ね５年間で、緊急的な治水対策を実施することとしました。

今回は、小本川の河川激甚災害対策特別緊急事業についてご紹介します。

なお、今回の採択は小本川下流部 24.1km における治水対策であり、別途、上流部約 24.5km の河川改修も併せて予定しております。



☆河道断面は、今回の被災流量規模（概ね 1/30）を確保するものとする。

◆“最上小国川流水型ダムの堤体コンクリート初打設について”

山　形　県

１．はじめに

最上小国川は、宮城県境の山々を源とし、最上、舟形両町を貫流して最上川に合流する流路延長４４．９ｋｍ、流域面積４０１．２ｋｍ２の一級河川であります。

沿川は、瀬見温泉、赤倉温泉などの観光地のほか、全国的にアユ釣りの名所として知られていますが、急流河川のため古くから頻繁に洪水に見舞われ、特に昭和４９年には甚大な被害が発生しました。最近では平成２７年９月の豪雨時に赤倉温泉地区を中心に浸水被害が発生しました。

このように、度々洪水が発生していることから、赤倉温泉地区の治水対策は喫緊の課題となっていました。

最上小国川流水型ダム　完成予想図



２．ダムの概要

最上小国川流水型ダムは、洪水調整を目的とした流水型ダムで、計画諸元は次のとおりです。

（１）　形式　　重力式コンクリートダム
（２）　堤高　　４１．０ｍ
（３）　堤頂長　　１４３．０ｍ
（４）　総貯水容量　　２，３００千ｍ３

平成３年より予備調査、平成２０年からダム建設に着手し、工事用道路工、転流工を実施し、平成２７年２月に堤体工事の契約を経て平成２８年４月に河川の転流を行いました。

３．堤体コンクリート初打設

最上小国川流水型ダム建設地において、平成２８年１０月１１日に堤体コンクリート初打設に伴う工事安全祈願祭と現場見学会を開催しました。

赤倉温泉地区住民の方々をはじめ、最上小国川流域関係者、施工業者及び行政関係者等多くの関係者に出席いただきました。

大型クレーンによるコンクリート初打設



堤体コンクリートの初打設にあわせ、地元神社の宮司による神事が執り行われ、工事の安全を祈願しました。
引き続き見学会では高橋最上町長を始め来賓からご祝辞をいただき、地元町民、工事関係者やマスコミ等が見守るなか大型クレーンによりコンクリート初打設を行いました。

３．おわりに

今後は冬期間の打設休止期間を挟んで、来春から本格的にコンクリート打設作業を進め、早期事業効果発現のため、現場の安全を第一にしながら一日も早い竣工を目指していきます。

編集後記

第５３号の発行にあたり、各県トピックスとして、青森県及び岩手県から台風第１０号の被災対応、山形県からは最上小国川流水型ダムの堤体コンクリート初打設についてご紹介いただきました。お忙しい中、編集にご協力頂いた各県皆様に感謝申し上げます。

これから降雪期を過ぎ本格的な融雪期を迎えるにあたり、雪崩災害や融雪洪水が発生しやすい状況となって来ることから、住民の適切な避難行動につながる、的確な情報伝達や関係機関との連携を図るようをお願いいたします。

今年も、東北各県と東北地方整備局の情報交換・連携を図り、「個性の大地」を通じて、復興並びに各県事業の取組事例を発信していきたいと思います。引き続きご愛顧の程をよろしくお願いいたします。